

図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立日吉南小学校 岡田 芳樹

1. 日時・場所 令和元年 9月11日(水) 第3, 4校時 場所 2年1組教室
2. 学年・組 第2学年1組 31名
3. 「学習の方向性」から題材へ

「学習の方向性」
感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表すことを楽しむ。
A表現(2) 絵や立体に表す活動

子どもたちの姿

- 工作や絵をかくことが好きな児童が多い。ほとんどの児童が図工の時間を楽しむことができている。
- 一方で、何を表したらよいか分からず、長時間悩んでしまう児童もいる。
- 「ひみつのグアナコ」では、想像したものをもとに、自分なりのグアナコを粘土で表すことを経験し、「コロコロ大きくせん」では、自分らしく表現することを経験している。

教師の願い

- 製作途中でお互いに鑑賞し、友達の作品からアイデアをもらい、自分の作品づくりに活かせるようになってほしい。
- 発想することが苦手な児童も、材料の選び方・飾り方を楽しみ、作品づくりに意欲的に取り組んで欲しい。
- カッターという材料の良さに着目し、自分で思い描いたように紙を切ることができるように使いこなせるようになって欲しい。

題材名

「ゆめの2の1タウン」

～カッターで切ったり、穴をあけたりした紙を立て、2の1オリジナルのまちをつくらう～

題材目標

- いろいろな方法で立てた紙を見て、感じたことや想像したことから表したいことを見つけ、表すことを楽しむ。
- 紙・はさみ・カッターナイフなどを、手を働かせて使い、好きな色を選んだり、表し方に思いを巡らせたりするようにする。
- 自分や友達のつくりつつあるものやできあがった作品を見ることを楽しみ、形や色の面白さに気づけるようにする。

題材について

本題材は、折ったり曲げたりして紙を立てようと試す中で、偶然に生まれた形や意図的にできた形をもとに発想し、紙の立たせ方や飾り方を工夫して、思いついたものをつくる活動である。紙は子供たちにとっては使い慣れた身近の材料である。しかし、折り方、切り方に工夫を凝らすことで立体的な作品に転換することができる。まずはじめに、紙を立てるにはどうすればいいのか、子どもたちに「切る」「折る」といった活動を通して試行錯誤する時間をしっかり設けたいと考える。そして、立てた紙を見て、どのように見えるのか想像し、また友達と共有する活動を通して、表したいものをつくる活動へと繋がるようにしていきたい。立て方や飾り方を自分だけでなく、友達と見せ合う活動を取り入れることで、最終的には自分の造形的活動を見いだすことができると考えている。

○学習の方向性にかかわる育む資質・能力と本題材との関連

- 本題材でメインとなるものが「カッターナイフ」と「厚紙」である。子どもたちは、まずはじめにこの二つの基本的な取り扱い方を学ぶ所から始まる。そして、徐々に表現方法や接着方法を学ぶことを通して、「材料・用具の基本的な取り扱いの知識・技能」の習得に繋がると考えている。
- 本題材では、紙を立てた形から自分の表したいものをつくる活動がメインとなる。これは

「身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考え、思いのままに表す。（創造的な技能）」の習得につながると思う。

○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

〔共通事項〕

- ア. 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。
- イ. 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚や活動を通して紙を立てたときの形や色の面白さや楽しさなどをとらえ、それらを基に“トンネルみたいな形だから電車を走らせよう”、“楽しい形を組み合わせよう”などの自分のイメージをもつ。

4. テーマに迫るために

部会テーマ

思いのままにすることを楽しむ子どもの姿を目指して

○であいの工夫

「平面の紙に、何らかの工夫をこらすと立てることができる」という表現方法を提示することで、造形的関心や活動への意欲を高める。実際に子どもたちにたくさん紙を触らせ、試しながら様々な紙の立て方を考えるようにさせる。また、カッターの使い方に慣れる時間を十分にとり、自信をもって、作品づくりにカッターの技法を生かせるようにしたい。

○場の設定の工夫

友だちとの見合いや学び合いに重きを置いて創作できるように、グループ活動の机の形態にする。そして、カッターはまず安全管理を徹底する。カッター使用時には必ずカッターマットを敷くことを指導し、また使い終わったら必ず刃をしまうように指導する。児童は自分で材料や道具を選んで活動できるように、紙コーナーや道具コーナーなどを設ける。そのほかにも、友だちの良いアイデアをいつでも閲覧できるように、教師が創作過程をカメラで撮り、撮れた写真を閲覧コーナーに置く。

○共感的支援の工夫

想像が膨らまなかったり、どこから手をつけて良いのか分からない児童がいることが想定されるため、製作中に児童への声かけを多くしていきたい。友達のアイデアを参考にするなど声かけし、イメージを具体化できるよう引き出していきたい。また、児童が発想した物語を共感的に理解し、それにふさわしい材料や表現方法を児童自ら考え、選択できるよう指導していきたい。

○小中一貫の視点

紙を切ったり丸めたりする活動を経験することで、材料や表現の選択の幅を広げ、そして深めることができる。また、カッターをもちいる技能は、中学校の美術活動にまでつながる能力である。今回、カッターの基本的な取り扱いの知識・技能を丁寧に指導することで、今後の表現活動に生かせるようにしていきたい。

5. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	○カッターナイフを使った表現や、紙を立てた形から思いついた活動をすることに興味や関心をもっている。
発想や構想の能力	○紙の立て方や曲げ方を工夫し、立てた形から自分の表したいもののイメージを広げている。
創造的な技能	○紙の接着や加工方法を工夫したり、紙に付け加える材料を効果的に使ったりして、自分の表現を広げている。 ○カッターナイフの基本的な技能を身につけている。
鑑賞の能力	○自分や友達の作品を見て、表し方の違いやよさに気づいている。

6. 指導と評価の計画 (6時間)

- ア. 紙のいろいろな立て方を試し、立てた紙が何に見えるかイメージを広げる。(1時間)
- イ. カッターナイフの使い方と表現に慣れる。(1時間)
- ウ. 紙を立てたり、カッターで切り込みを入れたりして、楽しい形を表現する。(2時間)
- エ. 自分の思いに合うように、装飾を工夫する。(1時間)
- オ. 自分や友達の作品を並べ、鑑賞する。(1時間)

	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">ア 紙を立てるにはどんな方法があるのか考えよう 紙を立てた形から、「2の1タウン」のイメージをもとう。</p> <p>○紙とカッターを使って、「2の1タウン」をつくるというめあてをもつ。</p> <p>○何も手を加えずに、紙を立ててみる。 「立たない紙をどうしたら立てるようになるのかな」</p> <p>○紙を触りながら「丸める」「折る」「曲げる」「切る」など様々な方法で紙を操作し、紙の立て方を考える。</p> <p>○「のりしろ」について学ぶ。</p> <p>○友達の紙の立たせ方を見て、色々な立たせ方を学ぶ。</p> <p>○立てた紙がどのように見えるのか「見立て遊び」をしてイメージを膨らませる。</p> <p>○「紙のタウン」に置きたいものを考える。</p>	関	<p>○個の作品を集めて並べて「紙のタウン」をつくることを伝えておく。</p> <p>○いろいろな紙の立て方を試し、友達同士で紹介し合うようにする。</p> <p>○のりや両面テープを使って立てているもの、はさみで切りこみを入れているもの、のりしろを作って立てているものなどアイデアを紹介し、整理する。</p> <p>○紙を立てた姿を見て、どんなものに見えるのか想像し、次に表したいものを考えるようにさせる。</p>
2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">イ カッターの使い方を知って、いろいろな切り方を試してみよう。</p> <p>○カッターナイフの使い方を知る。(安全な持ち方/刃の出し方/切り方)</p> <p>○カッターで紙を切る練習をする。</p> <p>○カッターでいろいろな切り方をして遊ぶ。</p> <p>○試してみたカッターの技法を友達と紹介し合う。</p>	関	<p>○カッターナイフの使い方を見せる。</p> <p>○カッターナイフの持ち方、刃の出し方、切り方を指導する。</p> <p>○約束事を黒板に掲示する。</p> <p>○ワークシートを用意して、カッターで切る練習をした後、自由に紙を切らせる。</p>
3 ・ 4	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">ウ カッターで穴や切り込みを入れた紙を立てて、楽しい世界を広げよう</p> <p>○紙の立たせ方を思い出し、自分の思いに合った紙の色や立たせ方を選択する。</p>	関 技	<p>○前時までの紙の立たせ方のアイデアの復習、カッターナイフの使い方の復習をする。</p>

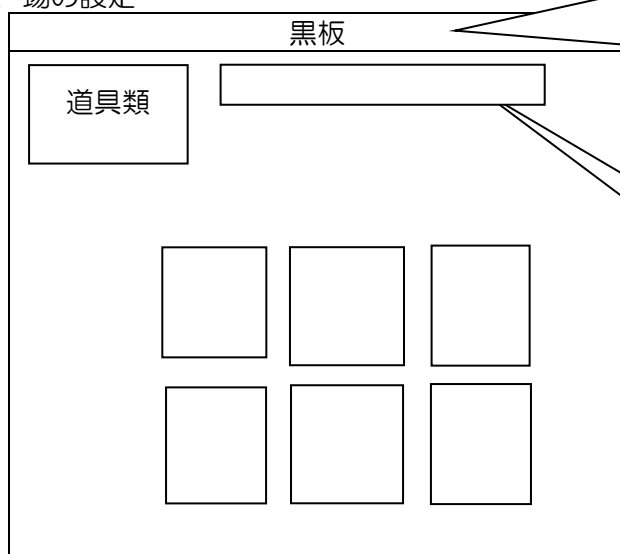
	<p>○立てた紙から見立てたり、思いついたりした表現に合うように、カッターナイフで切り込みや穴を開ける。</p> <p>○製作途中で鑑賞会を行う。友達の工夫を見つけ、自分の作品に生かしてみたいことを考える。</p> <p>○紙を台紙の上に立てて接着する。</p>		<p>○紙に切り込みを入れたり、穴を開けたりしたい場合、紙を立てる前にカッターナイフによるカットを行うことを伝える。</p> <p>○切れ端は再利用できるようにする。</p> <p>○友達の製作過程の様子を鑑賞し、工夫の良さを見つけ、自分の作品づくりに活かせるようにする。</p> <p>○紙の接着や加工方法を工夫させる。</p>
5	<p>エ 「紙のタウン」に立てた紙からどんなお話が生まれてくるかな？ 材料や飾り方を工夫して、自分の思いに合ったものをつくろう。</p>		
	<p>○立てた紙から見立てたり、思いついたりした表現に合うように、紙の接着や加工方法、装飾を工夫する。</p>	<p>技</p>	<p>○イメージに合うように、付け加える材料を様々な身近材料から選ぶようにさせる。</p> <p>○切れ端を再利用できるようにする。</p>
6	<p>オ できあがった作品をならべて、「2の1タウン」を作ろう。</p>		
	<p>○できあがった作品を、友達と相談して並べ、「2の1タウン」をつくる。</p> <p>○自分の作品、そして友達の作品を見て、すてきな工夫や気に入ったところを伝え合う。</p>	<p>鑑</p>	<p>○作品をつくる時に考えたお話を紹介しながら見合うようにする。</p> <p>○自分と友達との発想や表し方の違いや良さに気づかせる。</p>

7. 準備

児 童：はさみ、ものさし、接着剤

教 師：カッターナイフ、カッターマット、両面色厚紙、厚紙、色画用紙、折り紙、お花紙

8. 場の設定



・アイデアコーナー
(写真の拡大)
・カッターナイフの切り方の注意事項

紙コーナー
(厚紙・色画用紙
リサイクルBOX)

- 5～6人のグループで活動する。
- 机にカッターマットを全員敷く。
- カッターは、番号をつけて配布する。

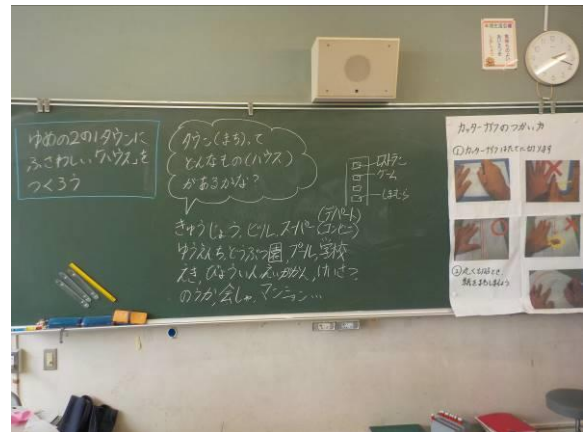
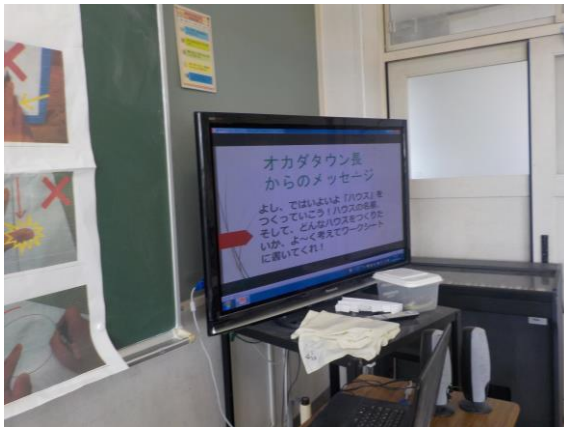
9. 研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」と「共通事項」を基にしたカリキュラムマネジメント

- ・カッターナイフの使い方について最初に重点的に指導したため、基本的な扱い方をほぼ全員が身に付けることができたように思われる。また、練習シートを多くし、様々な切り方や形を提示することで自分の表したいものをつくれた児童が多かった。
- ・カッターナイフ、図工マット、キットの位置を毎回固定することで、児童たちが準備、片づけを素早くすることができた。
- ・厚紙の立て方を導入に指導したが、実際に本番で使用する厚紙を切ると、「のりしろ」を作り忘れ、紙をそのまま土台に立てようとする児童もいた。厚紙を切り始める前に、あらためて紙の立て方を復習する必要性を感じた。
- ・切り始めると、タウンをつくるイメージからマンションなど建物をイメージする児童が多く、あまり多く切らずに立てようとする児童が見受けられた。そのため、個別にどのような建物をつくりたいのか、そのために何が必要で、どのような外見にしたいのか、また模様にしたいのかなど具体的に掘り下げる声かけをすることで、児童自身、表したいものを具体化することができ、それまで以上に切ろうとする姿勢が見受けられた。



- 飾りをつける際、多くの材料を持ち込み貼り合わせるため、それによりせっかく切った「ハウス」より、その飾りがメインになっているように見受けられる児童もいた。
- 班の形にすることで、友達の製作途中をお互いに見ることができるので自然と学び合いが成立することができた。
- よりおもしろい「ハウス」を作ろうとしている児童はその厚紙の表裏の色を上手に使い分けることができ、なるべく裏面の色が見えるような工夫を取り入れている児童もいた。ただ、一方で単色になりがちな児童もいたので、作り始める際に表裏の色を見せる良さについて指導することの大切さを感じた。今後の単元「うつして見つけて」などでは、単元の導入から指導していきたいと感じた。



2. 子どもが主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

- PPTを用いて物語調にすることで、導入から児童たちが意欲的に取り組むことができた。
- 製作途中で鑑賞する時間を設けることで、友達のアイデアを取り入れようとした児童が見られた。また、教師が新しいアイデアを紹介することで、自分のつくっているものにもう一工夫取り入れようとする児童の姿が見受けられた。
- 練習シートから、遊園地の置物、建物の天井の形にするなど表したいものに繋げることができた。練習シートに記載されている形が児童たちの「ハウス」に影響を与えるので、様々な形を用意する必要があると感じた。
- 最後に、再度鑑賞する時間、お互いの「ハウス」で遊ぶ時間を設けた時、児童たちがお互いの作品の細かな部分での良さに気づくことができた。中休みに自主的に「ハウス」で遊ぶ児童も多く、自然とその題材の面白さを感じることができたように思われる。